

ご参加要項

申込方法

①下記申込書に必要事項にご記入の上、切り取らずにFAXにてお送りください。受領後、受付確認の連絡を致します。
※必ず参加者のメールアドレスをご記入ください。
中産連ホームページ(www.chusanren.or.jp)、または右記のQRコードからもお申込み頂けます。
申込みが完了しますと、申込責任者のメールアドレスに「申込完了メール」が届きます。

②請求書は申込責任者宛へ郵送します。

フォーラム視聴用URLは、配信日前日までに「参加者のE-mailアドレス」へ送信致します。
※コンサルタント及び教育機関の方のお申込みはお断りしております。ご了承ください。



参加費

中産連会員	1名 49,500円	※2人目から半額(24,750円)とさせていただきます。
中産連会員外	1名 55,000円	※2人目から半額(27,500円)とさせていただきます。

※消費税込み

【1社複数名申込 特典】※1社2人以上のお申し込みの場合、2人目より半額とさせていただきます。

申込先

一般社団法人中部産業連盟 マネジメント研修事業部 安藤
〒461-8580 名古屋市東区白壁3-12-13 TEL:052-931-9826 FAX:0120-342-340

振込先

お振込みは、下記銀行口座へお願いいたします。
三菱UFJ銀行 名古屋営業部 当座No.420222 <口座名：一般社団法人中部産業連盟>

ご参加に関する
注意事項

1. フォーラムURLはご参加者本人のみ使用可能です。再交付、複数名で共有することはご遠慮ください。
2. オンライン配信動画の画面の撮影、録音、資料の複製等をご遠慮ください。
3. フォーラム参加に必要なインターネット回線、インターネット回線に接続できる端末(パソコン、タブレット、スマートフォン等)、参加者自身で準備及び設定願います。
4. ネット回線・システムトラブル等による視聴の遅延・中断等に関しては返金致しかねます。ご了承ください。

中産連×愛知県 自動車産業フォーラム2025(オンライン) 参加申込書

年 月 日

会社名

〒

所在地

TEL

FAX

※E-mail アドレスは必ずご記入ください。

参加者	所属部課・役職名	参加者氏名(フリガナ)	E-mail アドレス

申込責任者	所属部課・役職名	申込責任者氏名(フリガナ)	E-mail アドレス

会社概要	業種(主要製品名)	資本金	従業員数	中産連会員 (○印をお付けください)	会 員 ・ 会員外
		百万円	人		

今回で記入いただく個人情報は、セミナー等の運営・情報提供(郵便、メール、FAX等)においてのみ使用致します。
詳細は当連盟HP(https://www.chusanren.or.jp/privacy/index.html)をご覧ください。
同意のうえ、ご協力をお願い致します。関連情報が不要の場合には右記にレ点のご記入をお願い致します。 ☐ セミナーなどの関連情報の案内を希望しない

 一般社団法人 中部産業連盟

FAX 0120-342-340

マネジメント研修事業部 安藤 行

オンライン配信

大手自動車メーカー、自動車部品メーカーが語る

中産連 × 愛知県

自動車産業フォーラム2025

最新技術講座

オンライン配信期間

2025年3月14日(金)13:00～3月28日(金)13:00

※録画配信のため配信期間中は、何度でもご視聴頂けます。

ご講演企業・大学



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY



TOYOTA



MITSUBISHI
MOTORS



mazda



Panasonic
AUTOMOTIVE



MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 _ 2026



ROHM
SEMICONDUCTOR



自動車産業フォーラム
2025

協賛：公益社団法人 自動車技術会、一般社団法人 日本自動車部品工業会 中日本支部、
一般社団法人 日本金型工業会 中部支部、
一般社団法人 愛知県溶接協会、中部経済新聞社

共催： 一般社団法人 中部産業連盟 **中産連** ×  愛知県

講座のポイント

「自動車産業は今後、どのような方向に進むのか？」
「これから、どのような分野の技術開発やビジネスに力を入れるべきか？」

100年に一度とも言われる大変革期において、自動車産業は世界的にも力強い成長を遂げてきました。
また、新型コロナウイルス感染症の影響により大きな打撃を受け、自動車産業を取り巻く環境も大きく変化しました。
この前代未聞の局面の中で生き残るためには、自動車の技術が次にどこに向かっていくのかを常に考え、新たな視点から物事を捉える柔軟性が必要になります。
本講座では、自動車メーカー・部品メーカー（トヨタ自動車、マツダ、三菱自動車工業、ローム、パナソニックオートモーティブシステムズ）の技術開発の第一線で活躍するエキスパートと名古屋大学、名城大学による産学官の各分野において次世代自動車の最新技術や今後の動向を解説いたします。
自動車の明日の技術開発やビジネスチャンスを探っていただくため自動車産業に携わる皆様の一助となれば幸いです。

コーディネータ



坂井 滋 氏
公益社団法人自動車技術会・技術者育成委員会 講師・アドバイザー
（元 日産自動車株式会社）
日産自動車に35年勤務し、シャシー部品の設計並びに多数の新車開発を行い、日産の商品体系戦略立案などの責任者、日産リバイバルプラン策定パイロットを経て、FR高級車群の事業統括責任者、開発部門のアウトソーシング推進責任者など幅広く経験。日産自動車技術顧問、熊本大学客員教授、熊本県産業技術センター所長、熊本県産業政策名誉顧問などを歴任し、自動車以外の産業技術の発展や大学工学教育に従事。
現在は自動車技術会・技術者育成委員会の講師・アドバイザーとして自動車工学基礎講座の講義を担当。

【配信期間】 2025年3月14日(金)13:00～3月28日(金)13:00		『車両分解により見えてきた日米欧中のxEVの現在地と 2030年へ向けて中部地方産業界が執るべき技術戦略』	
受講対象者	・自動車産業に携わる企業の経営者、技術担当役員、管理職の方 ・今後、自動車産業への参入を検討している企業の方	講演 約50分	◆名古屋大学 未来材料・システム研究所 教授 山本 真義 氏 世界の各小型 xEV の分解解析結果を時系列にまとめることで、車載用電気駆技術要素を、材料、構成要素、要素システム（インバータ、バッテリー充電器、減速機等）、全体システム（e-Axle、車両全体）の各技術階層に分類して紹介し、特に中国 BEV メーカーの低コスト化、高付加価値化に対する技術アプローチを紹介する。さらにそこから 2030 年の電動車市場に向けて各関連企業が今から投資すべき研究開発の方向性、市場可能性について紹介する。
講演 約60分	『最新 自動車産業の動向2025 ～日本を取り巻く環境変化と新たなモノづくりのゆくえ～』 ◆名城大学 経営学部 教授 田中 武憲 氏 コロナ禍で急速に進んだいわゆる「EVシフト」が各国の補助金終了などにより「踊り場」と呼ばれる一方、世界最大の市場である中国では価格の下落によりBEVは自律的な成長局面に入りつつある。各国の今後の政策も不透明性を増す中、カーボンニュートラルへの対応やギガキャストの拡大など、自動車のモノづくりをめぐる環境は絶え間なく変化している。本講演では日本の自動車産業における課題と展望について説明する。	講演 約50分	『SDV時代に求められる自動車サイバーセキュリティソリューション ～ 未来の車を守る!SDVのセキュリティ最前線 ～』 ◆パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社 開発本部 プラットフォーム開発センター セキュリティ開発部 部長 中野 稔久 氏 SDV（ソフトウェア・デファインド・ビークル）の普及に伴い、サイバーセキュリティの重要性がますます高まっている。SDVは、車両の機能や性能がソフトウェアによって定義・制御される次世代の自動車を指す。本講演では、最新の技術動向、セキュリティ対策、そして未来の自動車産業におけるセキュリティの役割について議論し、自動車メーカーやサプライヤーが直面する課題とその解決策を探る。
講演 約50分	『次世代ものづくりを支える三菱自動車のデジタル技術』 ◆三菱自動車工業株式会社 技師長 塩崎 弘隆 氏 自動車開発を取り巻く環境は、世界情勢の変化、クルマに対するニーズの変化が激しく、将来の予測が読めない「VUCA時代」に直面している。世の中の変化に迅速且つ柔軟に効率よく対応する開発力が求められている。 今回、三菱自動車におけるデジタル技術を駆使したクルマの開発力強化の取り組みを紹介し、日本の基幹産業である自動車産業が、持続的成長を成し遂げるための策を紹介する。	講演 約50分	『クルマを通じた生きる歓びへの貢献 ～すべての人に「走る歓び」を永遠に提供し続けるクルマ作りと目指す社会～』 ◆マツダ株式会社 R&D戦略企画本部 主査 栃岡 孝宏 氏 クルマは移動手段というだけでなく、“楽しく操ることにより心や体が活性化する”効用があると考えている。いつまでも自信を持って運転でき、元気で心豊かな生活を送っていただくために、心と身体を見守る技術で、誰もが安全・安心・自由に移動できる社会に貢献していく。そして日常の動くことへの感動を創造し、乗るほどに元気になるクルマ作りと活力が生まれる社会の実現を目指す、マツダの取組を紹介する。
講演 約40分	『xEV 向けSiC パワー半導体におけるロームの取り組み』 ◆ローム株式会社 研究開発センター 基幹技術研究開発部 研究基盤開発課 統括係長 山口 敦司 氏 カーボンニュートラル社会実現に向けての取り組みの一つとして自動車の電動化が急速に進んでおり、特に電気自動車では駆動の中核を担うトラクションインバータの高効率化のためSiC パワーデバイスに大きな期待がよせられている。そこで本講演では、SiC パワーデバイスについての基本から解説するとともに、ロームにおける取り組みについて紹介する。	講演 約50分	『トヨタらしいDXとは？ 現在地とこれから』 ◆トヨタ自動車株式会社 ITマネジメント部 部長 西村 崇 氏 自動車産業は100年に一度の大変革期にある中、トヨタがDXに取り組み始めてから3年余り経過した。デジタルを身近に感じてもらう活動を皮切りに諸施策を展開。社員一人一人の意識や行動が変わり始め、自ら開発する文化も浸透してきた。 本講演では、トヨタの今までとこれからの取り組み、その中で明らかになった新たな課題への対応などについてお話する。